

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ◆生徒の主体的な教育活動の実践を通して、次代をリードし地域社会を支える人材を育成し、地域に根ざし、地域とともに歩む学校
- ◆4つのチカラを引き出し、伸ばす学校
 - 「育む四つ葉のクローバー（4つのチカラ）」
 - (1)【確かな学力】基本的な学習習慣を身につけ、主体的な学びを通して社会につながる学力を養い、希望の進路を実現する力
 - (2)【コミュニケーション力】豊かな人権感覚を持って違いを豊かさに捉える感性を育み、人とつながり、ともに高めあう仲間をつくる力
 - (3)【課題解決力】「答えのない問い」に真摯に向き合い、思考力・判断力・実践力を養い、未来を創造する力
 - (4)【地域貢献力】地域との連携や交流を通して、地域とつながり、地域の「人づくり・町づくり」に貢献する力

2 中期的目標

- ★ 全ての教育活動に「感染症対策」、「4つのチカラを引き出し、伸ばす」の観点を取り入れる。

1 確かな学力の育成

- (1)【授業力向上】新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざし、不断の授業改善に取り組む。
 - ア 授業力向上に係る取組みを教務企画部に位置づける。教科間で協働し、公開授業及び研究協議、相互授業見学、授業アンケートを活用した授業改善を進める。
※「授業アンケート」全評価軸平均 3.40 (R1:3.19、R2:3.28、R3:3.33)
 - イ 「主体的・対話的で深い学び」の授業、1人1台端末の導入にあわせた ICT 機器等を活用した授業を展開することにより、教員の授業力及び生徒の授業満足度の向上を図る。
※学校教育自己診断（生徒）「授業はわかりやすい」満足度 R6:85% (R1:73.6、R2:77.0、R3:80.6)
※学校教育自己診断（生徒）「ICT 機器が授業等で活用されている」満足度 90%以上を維持 (R1:85.0、R2:87.8、R3:91.0)
- (2)【進路実現の支援】教育産業を活用した基礎学力の定着を組織的に図り、生徒の希望する進路の幅を広げ、その実現を支援する。
 - ア 学力向上支援委員会が主導し、教科・学年の協働による教育産業の学習支援プログラムを有効に活用し、生徒個別の学習課題の克服と学習習慣の確立を図る。
※学校教育自己診断（生徒）「家庭での学習時間を確保している」肯定率 R6:55% (R1:45.6、R2:51.8、R3:49.0)
 - イ 早朝及び放課後や長期休業中の補習・講習の充実に取り組み、校内で自習できるスペースの整備・拡充を進める。
※学校教育自己診断（生徒）「補習・講習を十分行っている」肯定率 R6:80% (R1:75.6、R2:76.3、R3:78.6)
 - ウ 進路指導部と学年・教科が協働してクラス担任の進路指導力の向上に努め、生徒に寄り添い能力を引き出す指導を行い、希望の進路実現を図る。
※学校教育自己診断（生徒）「進路指導満足度」R6:88% (R1:79.8、R2:84.2、R3:86.0)
- (3)【専門コース制の充実】2つのコース（文系・理系）及び2つの専門コース（人文探究・こども保育）における3年間を通じた学習プログラムを構築・遂行し、希望の進路実現を図る。
 - ※学校教育自己診断（生徒）「コースや授業は自分の将来に役に立つ」満足度 R6:80% (R1:76.9、R2:77.1、R3:78.9)
 - ※生徒の難関私立大学（関西8私大）及び国公立大学の現役のべ合格者数 50人以上とする。(R1:13、R2:85、R3:39)
 - ※生徒の難関私立大学（関西12私大等）及び国公立大学の現役のべ合格者数 150人以上とする。(R1:113、R2:224、R3:149)
 - ※令和4年度入学生の専門コース選択者について、こども保育専門コース 20名、人文探究専門コース 40名をめやすとし、生徒のニーズに応じた進路指導を充実させる。

2 コミュニケーション力の育成

- (1)【生徒指導の充実】基本的な生活習慣の改善・定着を図るとともに、マナーや規範意識を醸成するなど社会性の向上を図る。
 - ア 挨拶、身だしなみの改善・定着、SNS 使用上のモラル向上、遅刻指導の強化、安全通学の啓発を全教職員で取り組む。
※学校教育自己診断（生徒）「基本的習慣の確立に力を入れている」肯定率 80%以上を維持 (R1:70.0、R2:75.4、R3:76.1)
※年間遅刻者数、1,000 以下を維持 (R1:1,383、R2:1,031、R3:802)
- (2)【ともに高めあう集団育成】特別活動や生徒会活動を通じて生徒の主体的な行動を促し、生徒の自主性や社会性を醸成する。
 - ア 部活動や各種行事を通じて周囲との協調性を養い、課題に向かって仲間とともに越える力を醸成する。
※学校教育自己診断（生徒）「学校行事満足度」75%以上を維持 (R1:74.6、R2:73.9、R3:67.7)
- (3)【人権尊重の教育の充実】一人ひとりを大切に、だれもが安心して安全に学べる学校をつくる。
 - ア 心の教育を充実させ、生命と人権を尊重し、多様性を尊重し他者を思いやる豊かな人間性を育む。
※学校教育自己診断（生徒）「学校の人権意識育成姿勢」肯定率 80%以上を維持 (R1:78.4、R2:85.6、R3:85.6)

3 課題解決力の育成

- (1)【主体的・対話的で深い学びの実践】授業や学校行事等において、生徒の主体的・対話的で深い学びの機会を持ち、思考力・判断力・表現力を育成する。
 - ア 「総合的な探究の時間」では、調べ学習に終わることなく自分の考えを発表する機会を積極的に設定する。また、3か年の実施計画を作成する。
 - イ グローバルな視点を養い、SDGs の達成のために「いつ・どこで・だれと・何を・どのように」行動すればよいか考え、自ら主張できる力を醸成する。
※学校教育自己診断（生徒）「自分の考えをまとめて発表する」肯定率 55%以上を維持 (R1:46.2、R2:54.4、R3:53.0)
- (2)【部活動の充実】部活動を通して自己の課題を克服し、挑戦し続ける力を育成する。共通の目標に向かい努力し続けるチームをつくる力を醸成する。
 - ※学校教育自己診断（生徒）「部活動に積極的に取り組む」肯定率 60%以上を維持 (R1:47.5、R2:61.4、R3:59.7)

4 地域貢献力の育成

- (1) 教科・学年・分掌・部活動との協働による地域交流や社会資源を活用した教育活動を拡充する。
 - ア こども保育専門コース生徒によるこども園等への出前授業や交流。
 - イ 人文探究専門コース、一般系生徒による小・中学生への出前授業等の実施。
※生徒による出前授業や地域交流の範囲を広げ、参加生徒が達成感を実感し、自己肯定感が高まるような活動内容の充実を図る。
- (2) 学校教育活動全体を通して組織的・計画的に学校保健活動を展開する中で、生徒の健康教育・防災教育の推進、主体的に清掃する意識と行動力を養う。
 - ※学校教育自己診断（生徒）「命を大切にすることを学ぶ」肯定率 85%以上を維持 (R1:83.0、R2:85.4、R3:85.2)
 - ※学校教育自己診断（生徒）「清掃が行き届いている」肯定率 R6:75% (R1:58.4、R2:68.2、R3:71.2)
- (3) 開かれた学校づくりの推進
 - ア 学校運営への一層の協力・理解を求め、保護者に対する情報提供をきめ細かく行う。
※学校教育自己診断（保護者）「教育情報の提供」満足度 R6:78% (R1:72.8、R2:76.8、R3:74.6)
※学校教育自己診断（保護者）「本校 HP をよく見る」肯定率 R6:55% (R1:47.2、R2:56.4、R3:40.1)
 - イ 地域に信頼され、地域の誇りになる学校をめざし、生徒と地域との交流を積極的に進め、地域とのつながりを強める。
 - ウ 中高連絡会の充実など、生徒が通う地域の中学校との連携を深める。

5 学校経営・運営体制の強化

- (1) 普通科専門コース設置校としての学校経営を推進し、教育活動の実施・改善に向け、円滑な学校運営とその機動力を高めるため組織力を強化し「チームみどり清朋」をつくる。
 - ア 運営委員会の活性化を図り、担当する分掌・学年のリーダーとして相互に連携・協力して、様々な課題を解決する計画の立案に携わる。
 - イ 教員間の OJT を機能させ、経験年数の少ない教員、ミドルリーダーの育成を図る。
 - ウ 「働き方改革」の推進のため、1階大職員室の機能を生かし、職員間の迅速かつ正確な情報共有を図り、分掌・学年・教科相互の連携を強める。
- (2) 1人1台端末の導入・活用に向け、校内体制を整備する。
- (3) 教職員対象の本格的な実働防災訓練を昨年度に引き続き実施し、地域と協働する等、より内容を充実させ成果あるものにする。
- (4) 支援を必要とする生徒への支援体制を充実し、家庭や地域との連携を深め、全ての生徒に対し、安心して安全な高校生活が保障できるように努める。
 - ア SC 及び SSW を配置し、校内教育相談体制を充実させるとともに、外部公的機関との連携を深め、迅速かつ的確な支援を行い中退防止等に努める。
※学校教育自己診断（保護者）「先生はさまざまな問題を見逃さずに対応」肯定率 R6:80% (R1:69.0、R2:73.4、R3:78.6)
 - イ 個別の支援計画の策定・実施を分掌・学年・教科の協働により組織的に遂行し、すべての生徒が安心安全に学ぶ環境づくりを進める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分] ※表中の()は前年度比	学校運営協議会からの意見
<p>【全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、感染対策を講じつつ従来の教育活動を可能な限り展開することができた。 学習活動に加え、行事活動では校外学習・体育祭・文化祭・修学旅行・球技大会など、部活動や地域交流活動でも、公式戦や各種大会・発表会、恩智川の清掃活動や池島音楽祭などの地域イベントなど、感染対策上必要な制約はあったものの予定通り実施、又は参加できたことは、生徒にとってたいへん有意義な経験となり教育効果を生み出すことにつながった。保護者の方々の理解と協力を得ながら教育活動を進められているが、より一層の情報発信にも努めていきたい。教職員は従来の教育活動を取り戻したことで、満を持しての行動が随所で確認できた。組織運営においても連携・協力を図る姿勢と行動が認められた。特に GIGA ハイスクール構想に基づき環境整備を進める中、大阪府の「リーディング GIGA ハイスクール」研究指定校に選ばれたことを契機に、より一層 ICT 機器を生かした授業づくり、効率的で効果的な学校運営を進めていきたい。 また、今回回収方法をオンライン方式に変更したところ保護者の回収率が低く、結果に偏りが生じている可能性がある。保護者の回収率の向上にも努めていきたい。 <p>【学校満足度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒「入学してよかった」：82.8%(-2.0)、「学校に行くのが楽しい」：83.4%(+3.9) ○保護者「入学させてよかった」：90.6%(-1.3)、「楽しみにしている」：84.3%(+2.1) 2%以下の下降となっているものの、概ね高い水準が得られている。 ○「特色ある教育活動」生徒：65.5% (+3.5)、保護者：52.8% (-8.7) ○「コースや授業は役立つ」生徒：81.2% (+2.3)、保護者：87.0% (+2.3) 「コースや授業は役立つ」は生徒・保護者共に5年連続して上昇（生徒+9.4、保護者+5.0 ※過去5年間）している反面、「特色ある教育活動」は保護者の減少が目立つ。本校は「地域に根ざし、地域とともに歩む学校」を掲げ、「こども保育専門コース」での保育実習や大学からの出前授業、「プログラミング教育」の出前授業など、近隣の保小中高大との連携・交流、有志や部活動生徒による地域イベント参加や清掃活動なども広がっている。こうした地域に根差した活動についても保護者との情報共有を図っていく。 <p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「教え方に工夫、授業はわかりやすい」生徒：75.9%(-4.7)、保護者：65.2%(-25.9) ○「ICT 機器の活用」生徒：85.8%(-5.2)、教員：89.1%(+6.5) ○教員「授業方法等の検討する機会を積極的に持っている」47.8%(±0.0) 「年間の学習指導計画を教科でよく話し合っている」58.7%(+19.6) ○生徒「自分でまとめる・発表する」57.2%(+4.2) ○「家庭学習時間の確保」生徒：43.6%(-5.4)、保護者：52.4%(+4.4) ○「補習・講習は十分」生徒：81.6%(+3.0)、保護者：76.3%(+7.4) 「授業はわかりやすい」については今回減少に転じた。特に保護者の減少が顕著である。この要因は単純比較だけでは判断できないが、引き続き授業力の向上には取り組んでいく。「ICT 機器の活用」についてはネット環境が不調で利用できない現象があったことにもよると思われる。「家庭学習時間の確保」の減少は、他の調査結果も考慮し、学習習慣の定着、学力向上を実現する具体的方策の実践を組織的に進める。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒「先生の指導は適切」81.4%(+1.4)、「基本的習慣の確立」77.2%(+1.1) ○保護者「指導方針に理解」74.1%(-4.9)、「指導に協力」74.3%(-6.7) 総体的にそうした生徒の努力、保護者の協力と教員の地道な指導の成果と認められる。併せて、生徒の自信の醸成を一層図るべく、主体的な活動をより一層促進させたい。 <相談対応> ○生徒「先生は意見をよく聞く」80.7%(+3.2) 「担任以外に相談できる先生がいる」60.6%(-0.1) ○保護者「相談に適切に応じる」78.9%(-4.2)、「生徒の相談に親身」68.4%(-10.2) 生徒と保護者間での差はあるが、引き続き相談体制充実に努めていきたい。 <進路指導> ○生徒「進路実現に向けて適切な指導」88.3%(+2.3) 「奨学金について十分に説明」82.1%(-7.4) ※保護者 75.2%(+2.5) 「コースガイダンスは適切」90.6%(+6.0) ○保護者「進路情報提供は適切」75.6%(-0.3)、「進路指導が適切」76.7%(-2.5) 日々の担任と進路指導部の指導やサポート、「総合的な探究の時間」や進路 HR、卒業生による講話等の成果である。引き続き保護者への情報提供・周知の工夫に努める。 <人権教育> ○生徒「クラスやクラブは話せる集団」86.4%(+5.6) 「人権教育の推進」89.1%(+3.5)、「命の大切さや規範意識を学ぶ」91.1%(+5.9) 人権尊重の教育と生徒の理解との相乗効果だと捉え、引き続き人権教育の推進を図る。 <部活動> ○生徒「部活動に積極的に取り組んでいる」57.9(-1.8) *R4年9月現在 やや減少したが部活動加入率は 58.9%* (+4.3) と上昇している。「府立高校における部活動の改革」を踏まえ、今後も部活動の意義を損なうことなく生徒の成長を図りたい。 <p>【学校運営等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員「組織的な講習」67.4%(+13.1)、「学校行事の工夫改善」82.6%(+10.9) 「学年・分掌は組織的」52.2%(+6.5)、「組織間の連携」45.7%(+6.6 ※+11.0) ○生徒「特色ある教育活動」65.5% (+3.5)、「先生は協力して指導」79.2%(+9.0) ○保護者「保護者の相談に適切」78.9%(-4.2)、「家庭への連絡・意思疎通」65.5%(-4.9) 「教育情報の提供」71.1%(-3.5) 特に「組織間の連携」について、教職員の意識と努力により令和2年度と比較し 11%上昇した。引き続き教職員による主体的で持続可能な組織運営をめざして取り組みたい。 ○「ホームページ」生徒 14.9%(-9.6)、保護者 40.0%(-0.1) 「1人1台端末活用との両立」「生徒の活躍情報の更なる発信」両面から改善を図る。 	<p>【第1回】6月16日（木）開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習活動の充実（専門コース、地域連携活動） ・めだかこども園と保育コースは連携しており、夏休みにボランティアで生徒が来てくれるのを楽しみにしている。保育士の希望者は少なくなってきたが、みどり清朋の「こども保育専門コース」の生徒には、保育コースを選んでよかったと思ってもらえるように協力していきたい。 ・池島音楽祭にぜひ参加していただきたい。 ○生徒指導、生徒の規範意識の向上 ・自転車マナーは年々よくなってきているイメージがある。 ○部活動の活性化 ・部活動加入率アップはいいことだと思うが、先生方の負担が大変ではないか。 ○保護者との連携・協力（コミュニケーション、進路指導） ・保護者ももっと先生方とコミュニケーションを取りたいと思っている。進路座談会を実施いただいていることはありがたい。 ・高校生の保護者としては、家ではあまり細かいことは言っていない。進路は自分で考えて切り開いていくものと話している。 <p>【第2回】10月3日（月）開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「観点別評価」について ・観点別評価（3観点）について、大学側から調査書の度数分布が変化するかどうかに興味がある。 ・中学校では、教員間でズレがないこと、説明責任を果たせるようにすることを意識している。 ○授業見学の感想 ・生徒の授業態度が以前よりかなり良くなっている。以前は寝ている子もいたが、今は皆真面目に受けている。 ・その状況が、授業アンケートの「集中して先生の話の聞いている」の上昇につながっている。また、大学進学率の上昇にもつながっている。 ・全学年、とても静かに授業を受けている。遅刻が少ないということがいい影響を与えていると思う。 ○「あいさつ」について ・難しい問題である。小学生でも、きちんとあいさつできる子、できない子がいる。本人の資質なのか、家庭教育の影響かの判断は難しい。 ○学校の雰囲気など ・制服の着こなしが良くなっている。生徒の意識の高さがあらわれている。 ・中庭がとてもきれいに整っていることが、生徒が落ち着いてきたことにつながっていると思う。 <p>【第3回】令和5年2月13日（月）開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業アンケート結果から ・肯定的評価は8割超を維持しておりほぼ横ばいである。3パーセントの減少には、今年度講師確保が困難な状況が続く、3、4か月ほど担当教員が決まらず生徒たちに不安を与えたことにも原因があるのではと考えられる。 ・中学校も東大阪市内では欠員のある学校が多い。 ・保育園も人員確保が大変な状況にある。 ○学校教育自己診断結果から ・奨学金に関する保護者の意識について、「就学支援金」と「奨学金」とを混同されている可能性があり、質問がややこしくなっていないか。各家庭によって状況が違うので肯定率にも影響が出るであろう。 ・結果について、一喜一憂することなく、要因分析を的確に行い、各項目間との関係も比較検討しながら、一定の長いスパンで継続して見ることも大切だと思う。 ○学習活動について ・家庭学習時間の減少については小・中学校も同様である。塾に通っている生徒は、通っていることで勉強をしているつもりになっている状況もある。学習支援も必要かと思うが、本当に必要な生徒が来ないこともよくあり、小中高同様の課題である。 ・中国では朝6時から夜10時まで学校で勉強をしている所も多く、大学への進学については、「学歴が人生を変えるチャンス」という考え方もあり、自分の人生をよく考えて勉強にも励んでもらいたい。 ・遅刻総数が1000を下回ることで自身が努力の成果と思うが、前回の授業観察で、時間にメリハリが利いていて授業にすっと入って習慣ができてきていることが良い。また、学校がきれいに保たれていることも良い影響を与えていると思われる。目的意識をもって生徒個々の伸びしろを更に伸ばしていただきたい。 ○地域連携について ・防災訓練については、東大阪市の防災訓練の再構築が進められており、池島地域もその対象になっている。今後とも中学校、高校との協力がより必要となっている。 ○全体を通して 本校の生徒の日々の生活状況を踏まえ、ルールの尊重やマナーの向上、授業をはじめ部活動や地域との交流活動等に対する姿勢と実践、校内美化等について、肯定的な意見に加え今後に向けた期待も寄せていただいている。 生徒の主体性をより一層生かし、教育活動の更なる充実を図っていききたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R3年度値] *%は肯定率	自己評価
1 確かな学力の育成	(1)授業力向上 ア 授業改善に組織的に取り組む イ ICT 機器を活用した授業づくり	(1)ア・研究授業、相互授業見学等の組織的な実践 ・「観点別評価」の実践及び評価の検証、次年度案作成 ・実習・体験学習の推進（校外も含む） ・新学習指導要領に則ったカリキュラムの策定 ・令和7年度入試を見据えた授業内容等の検討 イ・「考える授業」、発表の機会を増やす授業展開の実践 ・1人1台端末の更なる活用、ICTを活用した授業展開の開発・実践	(1)ア ・生徒「入学満足度」85% [84.8] ・授業アンケート全評価軸平均 3.30 以上 [3.33] ・生徒「授業はわかりやすい」80%以上 [80.6%] ・令和7年度「共通テスト」への対応に向けた研究 ・教職員「授業方法等の検討機会」48%以上 [47.8%] イ・生徒「ICT機器の活用」85%以上 [91.0%]	(1)ア 授業内容に関する情報や課題の事前配信など、授業への導入、発問や考え・発表させる機会の充実などに工夫がなされている。 観点別評価について、傾向分析、課題の全体共有化、「振り返りシート」モデル作成と共有化等、組織的な動きが生まれた。 ・「入学満足度」84.8⇒82.8% (△) ・授業アンケート全評価軸平均 3.33⇒3.30 (○) ・「わかりやすい」80.6⇒75.9% (△) ・国や進路研等の情報の共有と研究に努めた。(○) ・「検討機会」47.8⇒47.8% (○) イ・「ICT機器活用」91.0⇒85.8% (○) ネット環境の突然の不調等が生徒の診断に影響が出ているものと思われ、活用は維持できていると捉えている。 リーディング GIGA 1/1スクール研究指定による新型機器も生かし、更なる活用を進める。 (参考) 教職員「ICT機器活用」82.6⇒89.1%
	(2)進路実現の支援 ア 学習習慣の確立に取り組む イ 組織的な補習講習体制の確立 ウ 進路指導力の向上と生徒の能力を引き出す指導の実践	(2)ア・授業の予習復習を習慣づける家庭学習の充実 ・教育産業を効果的に活用する学習支援体制の確立 イ・教科を主体とする校内講習体制の確立 ・早朝や放課後、長期休業中の講習等の充実 ウ・令和7年度「共通テスト」の動向の把握と共有化 ・担任の進路指導力向上に資する情報交換会等の実施 ・生徒、保護者への適時な進路情報の提供と周知徹底、 ・大学見学会、外部説明会への参加、卒業生による講話 同友会講演会等を活用した進路意識の向上 ・各種検定試験への挑戦、資格取得による意欲向上	(2)ア・生徒「家庭学習時間の確保」50%以上 [49.0%] イ・生徒「補習講習は十分行っている」76% [78.6%] ウ・教職員「組織間の連携」40%以上 [39.1%] ・生徒「進路指導満足度」85%以上 [86.0%] ・保護者向け説明会、座談会等の充実 ・保護者「進路情報提供満足度」78%[75.9%] ・各種検定試験受験者数、合格者数、有資格者数の状況	(2)ア 入学後からの勉強法の指導、1人1台端末を活用した事前課題・資料配信は進めている。学習支援ツールの見直しを経て、更なる活用・充実を図る。 ・「家庭学習時間の確保」49.0⇒43.6% (△) イ・放課後、休日等の講習、勉強会は持続・充実。生徒評価もR1から上昇(+6%)を続けている。 「補習講習は十分行っている」78.6⇒81.6% (○) ウ・進路説明会や座談会、配信等を通じ提供に努めた。 ・「組織間の連携」39.1⇒45.7% (◎) ・「進路指導満足度」86.0⇒88.3% (○) ・「進路情報提供満足度」75.9⇒75.6% (△) ・「英検」受験者数は1月時22名。教員の丁寧な指導で面接指導の申し出など生徒の意欲も高まり、3級4名、準2級5名、2級2名の合格につながった。(◎)
	(3)専門コース制の充実	(3)・令和4年度入試結果を踏まえた分析結果の共有 ・分析結果を生かした専門コース、一般文系・理系生徒への学習計画の構築及び実践 ・こども保育専門コースにおける教科間連携の充実、地域のこども園等との交流の拡充、さらなる充実	(3)・生徒の希望に応じた進路指導を丁寧に行う。 ・関西8私大・国公立大の現役のべ合格者数40人以上 [39] ・関西12私大等・国公立大の現役のべ合格者数140人以上 [149] ・園児と交流する授業を推進する。	(3)・日々の懇切な指導、「総・探」や進路説明会、「卒業生に聴く」等の進路指導を系統的に行っている。(◎) ・「関西8私大等」現役合格者数39⇒80人(◎) ・「関西12私大等」現役合格者数149⇒208人(◎) ・保育園2園との交流で、2年時の企画や教材を更に検討を重ね改善を図るなど、生徒の主体性が生かされ、大いに活躍した。さらに、連携保育園のご厚意により、夏季休業中の保育園での実習も実現できた。(◎)
2 コミュニケーション力の育成	(1)生徒指導の充実	(1)・全教職員による生徒指導課題の共有、共通理解 ・生徒の規範意識の向上にむけた組織的な実践 ・身だしなみや自転車マナーの講習会の開催 ・全教職員による授業規律、遅刻指導の徹底	(1) ・生徒「基本的習慣の確立」75%以上 [76.1%] ・遅刻者数 1,100 以下を維持 [802]	(1) 生徒の素直で真面目な美質と、始業時間前からの駐輪場や下足室、各学年各フロア等での教員による呼びかけや SHR の維持・充実が相まって、効果を生み出し、数字にも表れている。 教員の授業を大切にす姿勢が生徒にも伝わり、生徒の気質と併せて落ち着いた学習環境を維持できている。 ・「基本的習慣の確立」76.1⇒77.2% (○) ・「遅刻者数」遅刻数 802⇒734 約 8%減 (◎)
	(2)ともに高め合う集団育成	(2)・グループワーク等を導入した表現力、発信力の育成 ・生徒会活動、行事における生徒の主体的な活動の充実 ・学校行事実現・充実のための感染症対策と計画の策定	(2) ・生徒「まとめて発表」55% [53.0%] ・生徒「クラス活動が活発」75%以上 [73.5%] ・生徒会との懇談会の実施（前後期各1回以上）	(2)・「まとめて発表」53.0⇒57.2% (○) ・「クラス活動が活発」73.5⇒81.6% (◎) 本来の授業形態やクラスでの活動を取り戻してきた。生徒の学力の向上、主体性の涵養に引き続き取り組む。 ・体育祭や文化祭への提案、学校説明会での司会・説明等で活躍。学習支援クラウドサービスを活用し、生徒会執行部の会議等の内容について共有化を図っている。(○) さらに、生徒会が中心となり自治活動の充実を図る。
	(3)人権尊重の教育の充実	(3)・一人ひとりの違いを認め合い、安心して学び高め合うクラスづくり、学級経営の実践 ・豊かな人権感覚を醸成する「総合的な探究の時間」の実践による体系化、道徳教育の推進	(3)・生徒「クラスやクラブは一人ひとりが尊重」75%以上 [80.8%] ・生徒「人権教育の充実」80%以上 [85.6%] ・関係委員会の連携による系統的プログラム作り	(3)様々な人権課題について考えることを通して、生徒の持ち前の意識が更に高まり、思いやり深い資質が相まって良い効果を生んでいる。引き続き、学校をあげて人権尊重教育に取り組む。 ・「一人ひとりが尊重」80.8⇒86.4% (◎) ・「人権教育の充実」85.6⇒89.1% (◎) ・「総・探」は、個別や対話による学習、発表活動に加え、ライブ中継など学習方法にも工夫が見られ体系化された。各学年の活動が組織的に運用できるようにする。(○)

府立みどり清朋高等学校

3 課題解決力の育成	<p>(1)主体的・対話的で深い学びの実践</p> <p>(2)部活動の充実</p>	<p>(1)自分の考えをまとめて発表する学びの充実 ・論理的思考力・判断力・表現力の育成 ・SDGsに関する探究活動の企画・実践 ・読書活動、図書館を活用した教育の推進</p> <p>(2)・クラブ間交流の企画運営、外部指導者の活用 ・学校説明会等での中学生の部活動見学実施 ・中学校との部活動交流のさらなる充実 ・ホームページによる活動報告等の随時発信</p>	<p>(1) ・生徒「まとめて発表」55% [53.0%] ・「総合的な探究の時間」でSDGsに関する研究発表会を計画的に実施する。 ・第2 LAN 教室の有効活用 ・ビプリオバトル等、読書活動・発表活動の充実を図る。</p> <p>(2) ・部活動加入率 55%以上 [54.6%] ・外部指導者を拡充し活動の充実を図る。 ・ホームページへの更新、アクセス数を維持</p>	<p>(1)・「まとめて発表」53.0⇒57.2% (○) ・「総・探」で生徒が設定する社会問題に含まれており、計画的に探究とプレゼン発表が行われている。(◎) ・プロジェクター機能を維持し発表活動に生かした。(○) ・読書活動も取り入れ、「ビジネスグランプリ」への応募にもつながった。POP アート作品の応募、受賞と府立中央図書館で展示され学校内外で成果を発表した。(◎) (2)・部活動加入率 54.6⇒58.9% (○) 生徒会主催のクラブオリエンテーションも功を奏し入部率の上昇につながった。大会等に加え学校行事や説明会等への参画、準備等でも活躍し貢献度は高い。 ・後援会の支援で拡充し、活動充実が図られた。(○) ・活動報告等は可能な限り随時発信を維持した。各部のブログ等に移行しており、ホームページのアクセス数に影響は出ているが、その配信効果は高い。(○) 今後「部活動改革」への対応をペア校と連携し進めていく。</p>
4 地域貢献力の育成	<p>(1)地域と連携した教育活動の展開</p> <p>(2)防災意識の啓発</p> <p>(3)開かれた学校づくりの推進 ア タイムリーな保護者への情報提供</p> <p>イ 中学校等への広報活動</p>	<p>(1)・地域の学校や福祉施設などとの連携と広報の充実 ・小・中学校への出前授業、こども園等での生徒の実習体験、自治会事業への参加の推進 ・部活動での小・中学生との交流 ・学校周辺の美化活動の推進</p> <p>(2)実働防災訓練の経験を生かした防災避難訓練の企画・実践。防災教育の取組みの実践</p> <p>(3)ア・ホームページの活用による教育情報の提供 ・保護者対象の授業見学会や講演会の充実 ・学校行事における PTA との一層の連携</p> <p>イ・生徒が活躍する学校説明会を開催（年2回） ・地域に根ざした中高連携の内容充実 ・出張模擬授業の実施、中学生への授業公開</p>	<p>(1)・生徒「地域の人々などと交流」肯定率 40%以上 [33.5%] ・生徒「学校の美化」70%以上[71.2%]</p> <p>(2)・池島学園の防災訓練への参加 ・感染症対策を講じた防災避難訓練の実施 ・生徒「命を大切にす心」肯定率維持 [85.2%]</p> <p>(3) ア・保護者「教育情報の提供」76%[74.6%] ・本校 HP の充実、アクセス数を維持</p> <p>イ・生徒の司会進行による学校説明会（年2回以上）</p> <p>・部活動での中学生交流会の実施（5部以上） ・出張模擬授業、体験授業（招待）を年間計3回実施</p>	<p>(1) ・「地域の人々などと交流」33.5⇒37.4% (○) 保育園2園、小学校2校への出前授業、中学校への説明、保育園での実習体験、「池島音楽祭」や恩智川等の美化活動への参加、部活動交流、東大阪市伝統果実「稲田桃」の植樹等、昨年度より更に充実した。 ・「学校の美化環境」71.2⇒78.3% (◎) 生徒の自己有用感を更に高めるため一層の充実を図る。</p> <p>(2)・池島学園の防災訓練には日程が合わず不参加となった。池島学園とは共有できており、学校協議会でも意見交換を行いながら可能な活動を今後も模索する。(○) ・東大阪消防署の指導を得て4月に火災想定で実施。大阪 880 万人訓練にあわせての実施は暑さを考慮し、10月に地震想定で実施した。(○) ・「命を大切にす心の醸成」85.2⇒91.1% (◎) 引き続き防災意識の啓発に取り組む。</p> <p>(3) ア・「教育情報の提供」74.6⇒71.1% (△) 従来の保護者あて文書に加え、ライデンメールやホームページへの掲載など、提供には一層努めている。引き続き情報提供に対する理解を図ってきたい。 ・アクセス数は、トップページは増加、校長だよりは減少した。臨時休業等の情報掲載の減少に伴う影響が大きい。 トップページへのアクセス数増加は中学生や保護者による閲覧の実質的な増加と思われる。(○) TOP : 84,595※1⇒105,791※2、月平均 8,460※1⇒9,617※2 校長だより : 32,349※1⇒19,803※2、月平均3,235※1⇒1,800※2 ※1:3月末データ、※2:2月末データ (参考) 保護者「HPをよく見る」40.1%⇒40.0%</p> <p>PTA 活動は文化祭バザーと社会見学を3年ぶりに実施することができ、更に交流が深まった。</p> <p>イ・学校説明会では4回全てに生徒会の生徒が司会・進行、説明を行った。また、「こども保育専門コース」の生徒が説明するなど参加は促進された。各クラブ部員や有志の生徒たちが案内・誘導等に参画し活躍した。(◎) ・部活動での交流は男女バスケットボール、男女バレーボール、男女硬式テニスの計6部で実施した。(○) ・中学校への出前授業は対象校の事情により中止となったが、3年ぶりに近隣小学校児童の高校体験が復活し、生徒たちも良く対応し充実したものになった。 また、出身中学校からの依頼で、生徒が先輩として高校生活の紹介等に説明に行くなど、総合的に指標は達成しており、何よりも生徒にとって自信創出につながる良い経験となった。(◎)</p>

府立みどり清朋高等学校

5 学校運営体制の強化	<p>(1)持続可能な学校組織運営の確立</p> <p>(2)新しい学校づくりを進める運営体制の強化</p>	<p>(1)・スクールミッション及びスクールポリシーに基づく教育活動の実施・改善を図る。 ・全教職員が教育目標達成に向けて、協力し支え合い実践する組織づくり ・経験年数の少ない教員への OJT 充実、ミドルリーダーの育成 ・分掌、学年、教科、事務室が有機的に結びつき、より機能的合理的に職務を遂行できる職員集団の形成 ・校務多重化の解消と「働き方改革」の推進、時間外超過勤務の削減 ・SSW 配置を継続し、教育相談支援体制を充実する。</p> <p>(2)・1人1台端末の活用に向けた校内体制整備 ・ICT を活用した授業実践に向けた教員研修の実施、好事例の共有</p>	<p>(1)・将来構想委員会を中心に、本校のミッションを踏まえ3つのポリシーを策定・公表する。 ・生徒「先生は互いに協力して指導」70%以上 [70.2%] ・教職員「組織間の連携」40%以上 [39.1%] ・教員の時間外超過勤務時間の月平均値を前年度比2時間減、4～1月[29.2時間] ・SC、SSW、相談室、保健室、委員会間の連携充実 ・教職員「教育相談体制の整備」70%以上 [76.1%] (2)・校内体制の整備を行う ・教員研修の実施（2回以上）、職員会議等での共有</p>	<p>(1) ・教育庁の計画に即して策定・公表につなげている。(○) ・「互いに協力・指導」70.2⇒79.2% (◎) ・「組織間の連携」39.1⇒45.7% (◎) (参考)「各教科でよく話し合う」39.1⇒58.7% 教職員間の日々の良好なコミュニケーション、協力への意識と行動の成果である。更なる向上をめざす。 ・時間外超過勤務時間月平均： 27.5時間(29.2)1.7時間減 ※2月末時点 「観点別評価」の実施で実質勤務時間が増えている中、何とか減少を実現している。(○) 日々の呼びかけを継続するとともに、引き続き産業医との連携を生かし教職員の健康保全につなげていく。 ・SC、SSW、相談室、保健室、委員会の組織間連携に加え、各学年の支援コーディネーターも活躍しており、学年・担任との更なる情報共有・連携を図っている。(○) ・「教育相談体制整備」76.1⇒60.9% (△) (2) ・オンライン授業及び端末の活用、「職員会議のペーパーレス化」に向け、GIGA スクール推進委員会・ネットワーク委員会等の関係委員会で協働し、研修、情報提供などを積極的に行う体制が確立した。 あわせて、「リーディング GIGA ハイスクール」研究指定校に伴う、環境整備を速やかに行い3年生の授業にも活用でき、教員の操作も円滑に進んでいる。(◎) ・オンライン授業及び端末の活用、「職員会議のペーパーレス化」に向けた研修を6回以上実施し、「リーディング GIGA ハイスクール」研究指定に係る活用のため説明等の研修も随時行っており、研修と共有化が実効化した。(◎) 「職員会議のペーパーレス化」については、ハイブリッド方式（運営委員会は資料有り／職員会議はペーパーレス）とし、3月中旬の会議室のアクセスポイント設置工事完了後に実現した。</p>
----------------	--	---	---	--